



ims

通信

2026年 7月号



梅雨明けが待ち遠しいこのごろ、いかがお過ごしですか。

今年もまた、暑い夏がやって来ます。

窓辺に吊るされた風鈴が、風に揺れてチリン、チリンと鳴る。

それだけで、ほんの少し暑さがやわらぐように感じることがありますよね。

風鈴は、いったいつから日本の夏にあるのでしょうか。

じつは風鈴は、最初から「涼しさを楽しむ道具」だったわけではありません。

もともとは中国の占いに使われた道具が起源とされ、

日本に伝わってからは魔除けの意味を持つものとして使われてきました。

風鈴はいつからある？起源は中国の「占風鐸」

風鈴の起源は、中国の「占風鐸（せんふうたく）」にあるといわれています。

占風鐸とは、風の向きや音の鳴り方によって物事の吉凶を占うための道具です。

竹林などに吊るされた風鐸が風に吹かれて鳴り、その音や風の流れから、

これから起こることを読み取ろうとしていたと考えられています。

今の風鈴は、夏の涼しさを感じるためのものという印象が強いですが、

けれど、もともとは「風を読むための道具」だったというのは、とても面白いところです。

風鈴は仏教とともに日本へ伝わった

風鐸は、仏教とともに日本へ伝わったといわれています。

日本に伝わった当時、強い風は災いや病を運んでくるものと考えられていました。

そのため、風に吹かれて音を鳴らす風鐸には、邪気を払う力があると考えられるようになります。

お寺の屋根の四隅に風鐸が吊るされるようになったのも、そのような魔除けの意味があったためです。

風鐸の音が聞こえる範囲は、災いから守られる場所と考えられていたともいわれています。

今では涼しげでやさしい印象のある風鈴ですが、

昔は人々の暮らしを守るための大切な音でもあったのです。

風鈴の歴史を知ったうえで音を聞くと、ただ涼しいだけではなく

日本の暮らしや文化の奥行きまで感じられるかもしれません。

今年の夏は、風鈴の音に耳を澄ませながら

その長い歴史にも少し思いを向けてみてはいかがでしょうか。



＜保険金請求漏れはありませんか？＞

日常生活はもちろんBBQや海水浴での、火傷・怪我・熱中症など一定の条件を満たしますと、

保険金お支払い対象の可能性がございます。

この時期は、台風・豪雨災害など自然による災害も多く発生致します。

お客様ご自身で少しでも、これって補償の対象なのかな？と疑問に思われた際には

一度、担当営業又は弊社までお気軽にお問合せ下さい。

【七十二候】

七十二候（しちじゅうにこう）は、二十四節気をそれぞれ3つずつの季節に分けたもので1年では72の季節になります。
自然に目を向けると、四季折々の季節の移り変わりが感じることができます！毎月一緒に季節の移り変わりを感ぜましょう！

《今月の七十二候》2026年7月2日(木)～7月6日(月) 半夏生(はんげしょうず)

半夏生は、夏至から数えて11日目頃にあたる雑節で、毎年7月2日頃になります。

もともとは、薬草として知られる「半夏（はんげ）」という植物が生える頃を指した言葉でした。

やがて農作業の節目を表す時期として定着し、日本では田植えを終える目安の日として大切にされてきました。



インスタ、ブログははじめました！

ims 社員の日々の出来事やつぶやき

情報提供など様々な内容を

配信しております!!毎日更新中！

下記よりご覧いただけます！

災害時・緊急時含め弊社から

情報提供をさせていただきます。

メールアドレスご登録の際は、

本文へお名前（フルネーム）を

ご入力下さい！

ブログ



弊社HP



インスタ



メールアドレス



〒239-0835横須賀市佐原1-10-1

有限会社 ims（アイエムエス）

TEL:046-838-5522 FAX:046-838-5533